

【1 班】神奈川県立神奈川工業高等学校 2 年女、神奈川県立大和南高等学校 3 年女、鎌倉女学院高等学校 1 年女、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 2 年男、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 1 年男 【ファシリテーター】橋本雅史（神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課） 【書記】赤谷未来（情報科学専門学校）	
S「夏休みの宿題をネットを使って提出できる時代になったがサーバーが重かったりして苦勞する」 F『何を目標にするかをまずは考えよう。まずはテーマを先に言うのもありだよ』 S「みんなよりも一人の人の生活をもとにするのもありかな」 S「これは高校生に向けての感じですか？」 F『そういのよりもみんなの意見をまとめて、また考えてみよう』 S「仕事っていう立場なの？学校っていう立場なの？」 F『実験とかテストとかの達成感の意見も多かったからまずは学校だね。そこから膨らませよう』 S「テスト期間中の息抜きの価値観みたいなの？」 S「そうすると価値観が変わっちゃうよ（笑）」 F『その前に代表者とかを決めない？』 S「書記はみんなでやろうよ」 ※書記は全員に決定 S「豊の中に幸せが生まれる」 S「+の豊と、-の豊をわけてみんなで意見を出していこうよ」 S「いいね！じゃあみんなで意見出して付箋に書いていこう！」 S「来るはずもない幸せとか？例えば満員電車で自分の前に座ってた人が立った！ラッキー！みたいなの（笑）」 S「なるほどね〜。運が悪いのか良いかみたいなの（笑）」 S「大雨が降ってきたら、水だー！気持ちいい！！みたいな？（笑）」 S「面白い話になっちゃったけど、まずは心の持ちようでもた変わっていくよね〜」 S「他の班を見て思ったんだけど、私達の班かなり話し進んだよね」 F『うん。結構話進んだね』 S「心に余裕をもてることなんじゃないか。人との交流はできないが。」 S「そうね。私、人の目苦手だから LINE とかだと人の顔も見ないで会話ができるから、私みたい人の目を見るのが苦手な人にとってはめっちゃ便利じゃない？」 S「ICT に繋がったね！」 F『大枠ではもう決まったね。これを他の人に説明するにはどうするか？をみんなで考えていこう』 S「会議ってすごいプレッシャーやばそうじゃない？そういう例え話もよくない」 S「Skype とかビデオ電話ってすごい画期的だね！」 S「時間の余裕と心の余裕を 2 つに分けよう！」 S「私達の生活は ICT に動かされてる」 S「そうだね！」 S「その前に議題の内容を詰めよう。これにつながるキーワードとか他にないの？」	S「あ！ひとついいですか？実は私前コンビニでアルバイトしてたんですけど、人手が足りなくて 2 人体制だったので誰かが急用で抜けたら私一人になってしまって、そんなとき最初はとっても苦勞しました。でもどんどんやってくうちにその状況になっても仕事に慣れていって、辛くなって思ってた仕事も楽に感じてくるようになりました。それもまた心の余裕をすごい感じました。いやーやっぱりそれは自分の努力の成果とか進歩したんじゃないかなー！」 S「ふと思ったんだけど、心の余裕の中から心豊かが生まれるんじゃないかな」 S「なるほど！では書き直しましょう」 S「そのコンビニでの経験をどう ICT に繋げるか」 S「そうだね。未経験の人の為にも働いてから苦勞しないように、コンビニアルバイトとはどんな作業があるのかをスマホで調べたり、今有名な VR を使って実際にコンビニで働いている感じを味わえるゲームを作ったりとか」 S「とりあえず下の経験、補助の余裕、時間の余裕の 3 つは ICT でなんとかできるね」 S「下の 3 つに安心も加えようよ！」 S「いいね！」 F『このままだと答えにくいところもあるから、例え話とかも入れようよ。その方が聞いている側もわかりやすいと思う』 S「だったら災害のときのことを考えようよ！セコムとか」 S「GPS もね！」 S「で時間の余裕は ICT で何でも調べられるね」 S「そうね！スマホがなかった時代は、わからないことがあったら人に聞かなきゃいけないし、聞く時間もかかるから苦勞したよね。あと天気知りたいときもテレビで天気予報が放送する時間まで待たなきゃいけなかったしね。スマホができてからそんな無駄な時間も省けるようになった気がする！」 S「じゃあ調べものに要する時間が少なくて良い！」 S「よし！付箋に書いて経験と補助のキーワードの間に貼ろう！」 S「NAVITIMES とか便利だね」 S「じゃあ次は補助のことについて考えよう」 S「Excel とか便利じゃない？」 S「VR は？」 S「VR は経験付近だね」 S「OK！」 S「AR は技術で！」 S「はいー」 S「セコムは安心に入ると思います！」 S「そうだね！全体的にね！」 S「時間の余裕は Skype、ネットショッピング、NAVITIMES の 3 つを貼りましょう！」 <熟議終了>
【ファシリテーター所感】 今年度のテーマは、高校生にとって少し考え辛い物であったかもしれない。「心豊かな生活」とはどのようなものか？彼らの中から当初挙がったものは、「好きなことをしてられる」「安心してられる」という感覚からの発言が多かったが、議論を重ねるうちに「何かしらのインプット」がないと、「心が豊かになる」状況は生まれないのではない。「同じような環境、境遇、事象」でも捉え方次第で「心を豊かにする燃料」となり得るのではないか、という方向に進んでいった。それらを、高校生の言葉で整理し、まとめていくことができた。 個々の事例について、もっと深く考え、話し合うことが出来ればより良かったかもしれないが、皆がバラバラに思い描いていた「心豊かな生活」について、メンバー 5 人が納得するものを紡ぎ上げることが出来た。 自身の考えと、他者の意見を総合して判断し、改めて同じ問題に向き合うことでより深く考える。自分で説明しながら	

言葉を選び、気付くと自分が言いたかったことを整理できる。普段の授業等でも、是非同じように考える機会を持ち続けて欲しい。もちろん、そのパートナーとしての ICT を効果的に、適切に勝義ながら。

【書記所感】

私は初めてこのイベントに参加したのですが、書記をやっていて一番感じたことは高校生の皆さんのコミュニケーション能力の高さにとてもびっくりしました。勿論皆さんはお互い本日初めて会う仲間が多かったかもしれませんが、普段から一緒に勉強しているかのように、班が発表されてからすぐに仲良くなっていて、とても温かさが伝わってきました。あと、私も見習わなきゃなと思いました。私が高校生の頃は皆さんのような高いコミュニケーション能力はきっとなかったです。本日は本当に貴重な経験をありがとうございました。

【2班】神奈川県立藤沢清流高等学校1年女、クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス2年女、横浜国立大学横浜サイエンスフロンティア高等学校2年男、神奈川県立神奈川工業高等学校2年男	
【ファシリテーター】小澤美紀（神奈川県立総合教育センター） 【書記】結城真実（情報科学専門学校）	
Q:F:『心豊かと思ったことは？』 S:「地図を持つよりアプリの方が持ち歩きやすい」 S:「テレビが見たい時にいつでもスマホでテレビの内容を視聴できる」 S:「何もない事がないことによって充足感を得られる」 S:「スマホがあることで連絡が簡単に取れて何でも話せる。友人・家族が離れていても近くに感じる」 S:「調べたいことを手軽に調べることが出来る」 S:「連絡で繋がることによって人の存在を感じる」 S:「テレビを見なくてもその日の天気調べられる」 S:「引っ越ししたり高校が違ってなかなか会えない友人から返信が来たとき、電話で声が聞けたとき」 S:「顔を見て話すよりLINEを使った方が話しやすいことがあった」 S:「ゲームや動画などで話題をすぐに見つけることができ、友達との接点になる」 S:「部活などで公的施設を借りるとき、ネットで気軽に借りることが出来る」 S:「一つの道具で多種多様な便利な機能が使えること」 S:「プリントなどを忘れたときに写真を添付して送ってもらうことが出来ると助かる」 S:「次のことが中々決まらないうち機械が選んでくれる」 F:『心豊か、便利だなと思うけど、ここに潜んでる落とし穴はありますか？もしくはこれが起こることによってストレスになること』 S:「忘れても大丈夫」と注意力を失うこと」 S:「LINEで既読が分かると連絡の返事を返さなかったことでトラブルが起きる」 S:「地図の見方がわからなくなる」 S:「充電切れなどで使えない時に自力で調べる力を失う」 S:「道具が使えなくなる」 S:「ネットでは嘘の情報も存在してしまう」 S:「特にTwitterは嘘の情報が大量にある」 S:「嘘の情報を信じてしまう」 S:「スマホにはまりすぎて人見知りになってしまう」 F:『面と向かって話すのとLINEでは何が違う？』 S:「感情が分からず文面だけだと誤解を生んでしまう」 S:「話している時にスマホをいじっていると感情が伝わりにくい」 S:「よく考えずに打ってしまうと取り消せず後悔する」 S:「つい最近にあった太陽フレアなどの電波などの影響で正しく情報を受信できないことがある」 F:『災害があるとネットを利用できなくなるのは問題になりますね』 S:「情報が漏えいすると取り返しがつかなくなる」 S:「自分で考えたり発想したりする能力が失われる」 S:「変換機能を使うと漢字が書けなくなる」 S:「ゲームや動画を見てないと話についていけない」	S:「写真などで全ての情報を管理しているとデータが消えたときに困る」 S:「ガラケー等でLINEが出来ないときに連絡先を交換できないと嫌な目をされる」 S:「パソコンやスマホの操作方法が分かりにくい」 S:「充実感などを求める為にスマホ中毒になりかねない」 S:「スマホに慣れると公衆電話の使い方が分からない」 F:『ネットについての注意を学校でもしているが理解できていない人へはどう意識してもらうか』 S:「考える時間を設ける」 S:「お金のかかるものにはもっとわかりやすく表示する」 F:『課金しなければ本当に安全？』 S:「情報が漏えいしたりすると困る」 S:「課金している人はしていない人と差をつけるためにもっとのめりこんでしまう」 F:『それではネットやスマホが今後心豊かな生活になるようにはどうすればいいのか』 S:「人と人が関わる事は出来るだけ人でやる」 S:「自分でできることは極力自分でやる、機械に頼らない」 S:「スマホが使えなくても代わりの手段を確保しておく」 S:「不測の事態に備える」 S:「ネットの情報は情報源を探してみる」 S:「なるべく広い視点で情報を見る」 S:「少しでも良いからスマホの危険性を意識して使う」 S:「適度な利用を心がけ、管理を徹底する」 S:「相手の都合を考えて関わる」 S:「現実の延長線上にあることを意識する」 S:「文面を工夫して見直してから送信する」 S:「友達がいるときは携帯を使うのを控える」 S:「周りに注意で呼びかけるなど、物事が起こる前に出来る限りの対策をする」 S:「ウィルスにかかる体験をして危険性をわかってもらう」 S:「考えることをやめないようにする」 S:「使える機能は最大限に活用する」 S:「だからといって頼るのではなく、使い分ける」 F:『意識をしながら使う事が大切』 <熟議終了>
【ファシリテーター所感】 難しいテーマでの熟議だったが、時間の経過とともに意見も活発に出て、高校生の率直な意見を聞くことができた。今回の経験を、今後の学校生活にいかしてくれると期待している。	
【書記所感】 初対面でもお互い意見を話し合うことができいてホワイトボードいっぱい、書いた付箋が貼られていてこんなに意見が出ていることがすごいいいと思いました。	

【3班】神奈川県立大和南高等学校 2 年男、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 2 年男、神奈川県立神奈川工業高等学校 2 年男、クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス 2 年女、緑ヶ丘女子高等学校 3 年女	
【ファシリテーター】 佐々日向子（お茶の水女子大学）	
【書記】 長田剣将（情報科学専門学校）	
Q：F：『心豊かとはなんだろう？』 →S：「良い人間関係を築くことが大事」 →S：「みんなが安心して暮らせる」 →S：「自分のやりたいことが出来る」 →S：「将来に対して夢がある事」 F：『今挙げた心の豊かさを IT と関わる物を抽出してみよう』 S：「同じ感情を分かち合うというのは SNS にも精通していると思う」 S：「SNS で共通する物、無くても出来るモノで分類してみよう」 S：「自分らしくいるという点では、現実では良い点かもしれないが、ネットだと自分を偽ってしまう事もあると思う」 F：『みんなの思うやりたいことって何だろう？』 S：「遊びに行くこととか、ゲームするとか」 F：『その遊びを誘う事にも SNS 使うよね』 S：「今上がっているものを SNS、感情、環境、自分自身で分けてみよう」 F：『これがないとつらいと思うことは？』 S：「みんなと連絡を取ることが出来なくなる事です。」 S：「ネット用の試験を受ける事ができない」 S：「災害が起きた時に連絡が取れなくなってしまう」 S：「ネットショッピングができない」 F：『逆にそれが出来る事が心の豊かさに通じるね』 F：『スマホでできることは？』 S：「音楽を聴く」 S：「スケジュールの管理」 F：『家族とのつながりで使う SNS は？』 S：「ごはんや、帰宅する時間を連絡するのに使っている」 F：『将来の夢ってどうみつける？』 S：「今ある仕事などを見て決める」 F：『昔だったら紙媒体だけだったが今はネットがあるからいろいろ知れる』 F：『ネットがなくなってしまうと困る人ってどんな人だろう？』 S：「警察や消防士さんは電話が繋がらないと助けにいけないでも、それがあるから」 S：「昔では地図しかなかったから大変だったけどナビなどの IT 技術が出てきたことにより助かる命が増えた」 F：『海外に言って困る事は？』 S：「翻訳がないと困ります。」 F：『今挙げたのが心の豊かさの要因だね、今度はネットにおける怖い事や落とし穴はなにか？』	S：「性別や個人のなりすましが出来てしまう」 S：「相手の顔が見えないので無責任な発言が多々ある」 S：「ネットに依存しすぎて物事を考えなくなる」 F：『それを健康、友達関係、個人情報、お金、信用性、教育に分けてみよう』 S：「自分の知らない人が自分を知る。これは SNS では拡散されてしまうと知らないところで悪用されてしまう」 S：「文だとそれが確実に本人だという信憑性がないから信用性に分類されるかな」 S：「それに文と同じ文でも感情が分からないから相手に自分の感情を伝えるのって難しいから友達関係にも入ると思う」 S：「ネットでのお買い物だと目に見えたお金じゃないからお金をつけた感じが無く知らぬ間に多額の請求がきてしまう事件があるよね、それはお金のジャンルかな」 S：「友人と LINE を遅くまでしてしまい、切るタイミングを逃してしまった。これは健康にも友達関係にも入るよね」 S：「自分の体験していないことをネットを通じて知る事が出来るがそのときにしか味わえない事があるがそれを味わえず本当の感動を味わえないこれは教育にはいるかな」 F：『これを見て、罨や怖い事を予防する方法はないかな？』 S：「一番は身近の大人に相談するといいかもしれませんね」 S：「教育については実際に触れてみる事によって改善する」 S：「個人情報については自分自身が SNS を使用している時点での危険性を自覚する」 S：「お金についての詐欺は出元である会社、商品の第三者のレビューをみて参考にする」 F：『今だした解決策は自分、家庭、地域どの種別で分ける事が出来るかな？』 S：「身内だと助言ではなく叱られたりするので第三者に相談するべきだと思うので地域」 S：「家族間での信用性については、日々のコミュニケーションを円滑にとることで解決できると思うので家族」 S：「SNS での個人情報の流出については、自分があげるにあたって一回挙げる前に確認、することが大事だと思うこれは自分のジャンルだと思う」 <熟議終了>
【ファシリテーター所感】 今回のテーマが生活の豊かさと、とても抽象的で、私としても生徒たちとしても案をまとめるのが難しかったです。自分がどれくらい口を挟んでいいのかわからず中途半端なサポートになってしまったのではないかと思います。けれど生徒たちが楽しそうに熟議している姿がとてもよかったです。	
【書記所感】 一人ひとりがしっかりと意見を挙げる事が出来ていて、討論の質が高いと感じた。相手の意見を尊重して、その意見に付け加えて新たに意見をだす。相手の意見の尊重が出来ていたと思う。	

【４班】クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス２年女、神奈川県立神奈川工業高等学校３年女、日出学園中学校・高等学校２年男、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校２年男	
【ファシリテーター】井出風砂（早稲田大学）	【書記】水野源帥（情報科学専門学校）
F:『心が豊かになるという事はどういうことか、一人ひととつずつ付箋を使って、思いついたことを書き用紙に張っていきましょう』 S:「付箋によって、話し合っている内容を変えていったらどうか」 S:「それでは、緑色＝心が豊かな生活とはなにか 黄色＝ICTの利便性 水色＝ICTによるデメリット 赤色＝ICTを使いできることにしていきましょう」 F:『書き終わったら、書いたものの理由を話すのと、似たようなアイデアをまとめていきましょう』 S:「笑顔が絶えない →楽しく笑える事で、幸福度が高くなり心が豊かになるのではないかと」 S:「仲間が増える →自分とは違う個性による、意見や話し合いによって豊かになるのではないかと」 S:「人と話す機会が増える →話す事によって、悩みが相談しやすかったり共感を得たりできるので豊かになるのではないかと」 S:「このアイデアを、仲間がいるという一括りにしよう」 F:『括りをいくつか作って発表の柱にすればやりやすいのではないかと』 S:「共通のくくりをもてる →自分と似た感性の人と出会うことで、共感できることが増えたりするので豊かになるのではないかと」 S:「次の日も楽しみ →日々の生きがいを毎日感じているので豊かになるのではないかと」 S:「自分のやりたいことがわかってる →自分の本当にやりたいことを把握できているので豊かなのでは」 S:「自分の好きな事がやれる →充実した時間を感じながら生きているので、豊かなのでは」 S:「時間に余裕のある →時間に余裕があれば、心にも余裕が生まれるので豊かなのでは」 S:「周りに目を向けることが出来る →自分に目一杯であれば、周りには目を向けられないので豊かなのでは」 S:「制限されない生活 →自分のやりたいことなどを制限されていると豊かになれないのでは」 S:「心に余裕がある →レポートなどによって日々追われているとそればかりに集中してしまうので、豊かなのでは」 S:「この中のアイデアの時間に余裕のある、から抜き取り、心と時間に余裕のあるという括りにしよう」 F:『自由があるというのは、心にゆとりがもてるのでは？』 S:「では、自由があるという括りも」 F:『次に、ICTによっておこるメリットについて意見を出しましょう。』 S:「他人と共有できるということ」 S:「いつでもどこでも使える」 S:「誰でも使えるということ」	S:「素がだせる →居場所があると、自分を取り付く必要はないので」 S:「GPSによる位置情報取得」 S:「多様性のあるアプリケーションやネットワーク →Siriなどの便利ツール」 S:「遠くの地域の人と繋がる →いつでもどこでも誰とでも繋がるということ」 S:「いろんなデータをたくさん保存できる →紙などの媒体よりも、場所をとらずまとめて置いておける」 S:「データのとりやすさ →とったデータをグラフ等で利用できる多様性」 F:『最後に、ICTを使用したデメリットを考えてみましょう』 S:「不健康 →PCやスマホによる身体機能の低下」 S:「学力の低下」 S:「事件の切っ掛け&詐欺 →詐欺だけではなく、SNSによるトラブルなど」 S:「事件に繋がる」 S:「アプリによる、地域への迷惑 →ゲームなどによる、地域住民に対して迷惑行為が増える」 S:「個人情報の漏洩 →個人や会社が、不利益を被る状況に陥る」 S:「言葉の行き違い、勘違い →言葉のニュアンスが伝わりづらいので」 S:「ネットによる簡単な人間関係の脆さ」 S:「発表に向けて、まとめていきましょう」 F:『では、発表するに向けて軸を決めれば発表しやすいのでは』 S:「心を豊かにするには軸にして、まとめたアイデアの中から決めて行こう」 S:「軸を中心に、発表に向けてICTのアイデアを出し合いましょう」 F:『政府の人達向けに発表するので、内閣がしてくれそうなことがいいのでは？』 S:「ICTを使うに当たって、人が使用するという事をメインにしたい」 S:「心が豊かな生活の為に必要な事を減らして考えたほうが方向性は考えやすいのでは →仲間がいるということ、心と時間に余裕があるをメインに考える」 S:「今社会問題として、デメリットを改善する為に考えたほうがいい？ →ポケモンGOによって出歩く人が増えたように、社会のデメリットを改善したので」 S:「心と時間に余裕があると、事件に繋がるというデメリットは関係性があるのでは？ →ネグレクトによる事件は、母親側に孤独感ややりたいことができないという」 S:「虚しさをICTでどうにかできないか」 S:「趣味を共感できない人かつ積極的に関わり合いを持っていない人達向けに、学校側から趣味の合う人達を繋げるSNSを作ったらどうか →いいのではないかと」 S:「お年寄りなどはICTが使いづらそう」 <熟議終了>
【ファシリテーター所感】 全員が意見を出すことに抵抗がなく、話し合いを進めようという明確な意思をもって発言していたように思う。意見	

の方向性の調整、時間調整もある程度自分たちで行っており、スムーズに進行した。話し合いが行き詰っても一度スタート地点に帰って、方針の見直しを行っていた。

【書記所感】

最後の最後、議論の途中で終わってしまったのが残念でした。意見が止まることなく、出続けていたので驚きました。みんなわからないことや、不思議に思ったことを素直に聞いていたりしてとても積極的でした。話し合いの途中で、方向性が外れてしまうことが多々ありましたが、最後にはうまくまとめられていました

【5班】神奈川県立藤沢清流高等学校1年男、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校1年男、鎌倉女学院高等学校2年女、日出学園中学校・高等学校2年女 【ファシリテーター】中島尚樹（NPO 情報セキュリティフォーラム） 【書記】玉村響（情報科学専門学校）	
<ネットやスマホで心はどう豊かになっているか> Q:F『ネットやスマホで心豊かな状況とは』 →「あらゆることを調べることができる」 →「1人が独りにならない」 →「情報の発信が容易になった」 →「24時間人とかわることができる」 Q:F『人間関係以外にも他になにがある?』 →「セルフレジなどもそれにあたるのではないか」 →「ビッグデータなどもある」 S「人間関係と技術関係に分けられる」 S「手紙だと距離も相手も限られていたがインターネットによって距離と範囲の制限がほとんどなくなった」 F『それでどう豊かになった?』 S「孤独を解消できるようになった」 S「今まで見ることができなかった世界を見ることができて心が豊かになった」 S「煩わしい感覚を解消したいという思いから技術が発展し人間がすべきこととしなくていいことが明確になった」 S「それによって心に余裕ができる」 <落とし穴> Q:S「便利のうらの落とし穴とはなんだろう?」 →「進化した技術に依存してしまう」 →「便利には必ず落とし穴も存在する」 F『他人からの目や意見を意識しすぎてしまうのも落とし穴のひとつですね』 S「いいところを悪いようにつかってしまう場合がでてくる」 F『フェイクニュースなど嘘があつという間に広まってしまうのも怖いですね』 S「悪いことをする人は心に余裕がない人である」 S「余裕が持てていない人は心が弱いからネットの世界に依存してしまったりして自分を見失ってしまう」 S「そこで過信が生まれて間違ったことをしてしまう」 S「炎上もネットの穴のひとつですね」 S「狙った炎上と狙ったつもりのない炎上のふたつがある」 S「ネット社会を軽く考えてしまう人が炎上しやすい」 <今後どのような心豊かな生活を作り出せるか> F『どんな ICT 社会を作っていきたいか』 S「子供の頃からモラルや道德感を教えることによりネット上でもやっていいことと悪いことを区別させる」	S「つながっていることを意識することが重要」 S「心に余裕がある人が ICT を活用することによって人と人がよりよくつながることができる」 S「心の余裕と ICT はつながっており、心の余裕は ICT の発展により生まれ、ICT がいい使われ方をされるかどうか左右される」 S「余裕と慢心をはき違えると落とし穴に陥りやすい」 S「結論として ICT 上の問題の解決は現実の問題の解決に直結する」 S「心の余裕の好循環を保ち続けることが ICT 社会で生きていく上で重要である」 <熟議終了>
【ファシリテーター所感】 「心豊かな生活」とは?という抽象的で難しいテーマに対して、自分の身近な問題をヒントに、様々な意見を交換することが出来たと思います。メンバー4名が偏ることなく積極的に意見を述べていた点も印象に残りました。 最後に発表した提言に関しても、端的に分かりやすいキャッチフレーズを考えるなど、工夫がみられました。	
【書記所感】 話し合いが面白く、聞き入ってしまい所々書き損じてしまいました。 高校生のみんなが若いうちにこのような討論する場を得られたのはとてもよいことだと感じました。	

【6班】クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス 3 年男、鎌倉女学院高等学校 1 年女、神奈川県立大和南高等学校 3 年女、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 1 年男、神奈川県立藤沢清流高等学校 1 年男

【ファシリテーター】下條秋太郎（NPO 情報セキュリティフォーラム） 【書記】鶴田智貴（情報科学専門学校）

Q:F『スマホやネットを利用して便利だと思うことは何か?』 →「気になることを調べる。」 →「ネットで買い物できる。」 →「情報がすぐに入ってくる。」 →「わからないことをすぐに調べられる。」 →「家族で買い物。」 →「遊びにいきやすい。」 →「友達と連絡が取りやすい。」 →「欲しい物がすぐに手に入る。」 →「学校行事や塾の予定がすぐ分かる。」 →「バイトのシフトがすぐ提出できる。」 →「友達と写真をすぐに共有できる。」 →「いつでもお店や病院の予約ができる。」 S:「みなさん学校絡みで利用したりすることが多い。」 S:「学校の授業だとアプリを通して、問題の配布ができる。」 S:「そのほうが良い。家で紙媒体の宿題をやるよりスマホ媒体のほうが気持ちのうえで楽になる。」 S:「でもネット環境のせいで途切れてしまうと最初から宿題をやり直しになってしまうことがある。よって良い面もあれば悪い面もある。」 Q:S「バイトをしている人は、実際にシフトを提出するときどう思いますか?」 →「バイトのシフトを提出するとき、ネット上だと非常に便利だと思う。」 S:「便利な情報管理のひとつだと思う。」 S:「会話や連絡するうえで、多人数だと LINE だと便利。」 S:「一対一の連絡だけではなくてきたからとても便利だと思う。」 Q:S「SNS とかで写真をあげる時は、鍵アカウントにしていますか?」 →「していない」※ほぼ S:「情報取り入れるのが、スマホの普及で間隔細くなった。」 S:「好きな情報を短時間で入手できるから良い。」 S:「だから情報を細かく入手できるのは、わかりやすく位置情報サービスを使うときに恩恵を感じる。」 S:「気になるものがあった時に、すぐ探せてすぐ買えるネット通販などを便利だからよく使う。」 S:「それとプライム会員だと、特定のサービスを受けられることができるから良い。」 S:「ネット通販だと、興味関心あるものを特定してくれてピックアップしてくれる。」 S:「買ったもので、関連商品を探してくれるのが良い」 S:「動画などでも関連する動画を探してくれる。」 S:「ネット通販で、家にいなくても食料品を買える。」 S:「ネット通販などを例に ICT でいろいろなものが紐づけられていく。」 S:「ICT を便利さのメリットとして、多くの情報が紐づけられて自分好みにすることだと思う。」 F:『ネット利用についての落とし穴について考えましょう。』 S:「LINE などの事象で文字だけだと伝わりにくい。」 S:「直接言っているわけではないから、人によって捉え方が違うし、問題になりやすいと思う。」 S:「写真をネット上や SNS にあげるときは、了承を得ているかなど、流出して困ることはあげないように注意が必要だと思う。」	S:「あとは宿泊予約などの修正がしづらい。キャンセルの料金問題になる。」 S:「スマホゲームのやり過ぎで、課金して問題につながる。」 S:「ネット通販だと現物を見て買えない。」 S:「Twitter や LINE のやり過ぎで、依存症になってしまうのが問題だと思う。」 S:「依存症などで、夜遅くまで起きてしまうこともある。」 S:「情報収集のほうで Twitter などに依存してしまう。」 S:「あとは、ネット上にデータが永遠に残ってしまう。」 S:「どこの誰が写真や投稿を見ているか、分からないから問題である。」 S:「たくさん情報を集めることで、本当に知るべき情報が分からなくなってしまう。」 S:「情報を集めすぎて、冷静になれない。」 S:「情報に埋もれすぎていて、本来のことを、思い出せない。」 S:「地域関連でのネットに対する落とし穴ってなにかありますか?」 S:「バイト先の人で、SNS 上で交流したくないのに交流しないといけい。友達登録などをされて、こちらもバイト先の人なので登録しないといけい。」 S:「LINE の登録条件でメールアドレスや電話番号を登録しなくてもできるようになってきたので、連絡先交換のハードルが下がり、前の事例のような問題が多く発生しやすくなったのではないかな。」 S:「人によって、認識、意識の差があるのが問題な気がする。」 S:「その差や隔たりを技術で開発すれば問題は解決するのではないかな。」 S:「本来の目的の情報しか求めてない人用と、関連商品のシステムのように、紐づけしてより多くの情報を求めたい人用に分けるべきだと思う。」 S:「ICT の便利さのデメリットとしては、多すぎる情報によって知りたいという欲から本当に必要な情報が受け取れない。」 F:『今後どのような生活を作りだせるか考えましょう。』 Q: S「本当に知りたい情報が得られずに、本当に心豊かなのか。そのことを考え、これからどうするべきか?」 →「情報を見極める力を身に付ける。」 →「技術だけに頼らずに人間性の上でも頑張る」 →「目的を見失わない力を養う。」 →「自分で抑えられないことを技術で補う。」 Q: S「本当に知りたい情報が得られずに、本当に心豊かなのか。ではなぜ心豊かではないのか?」 →「重要な部分を見落としているかもしれないから。ネットショッピングで関連商品に目がいつってしまう。SNS でどんどん情報が増えてしまう。※例、Twitter でのリツイート」 S:「この問題を解決するには、多くのアプローチが必要。」 S:「人間の理性で保てない部分をシステムなどで開発するべきだと思う。」 S:「技術をメインで使うのではなく、あくまで技術をアシストとして使うことが、心豊かな生活につながると思う。」 <熟議終了>
--	--

【ファシリテーター所感】

高校生のアイデアの方が学会等での報告よりも一部、新規性があるように思われるものがあつた。

【書記所感】

皆さん初対面にも関わらず、テーマに沿って噛み砕いて熟議できていたことに凄く驚きました。高校生だと思えない考え方、志向がたくさん見られた。

【6班】クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス 3 年男、鎌倉女学院高等学校 1 年女、神奈川県立大和南高等学校 3 年女、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 1 年男、神奈川県立藤沢清流高等学校 1 年男

【ファシリテーター】下條秋太郎（NPO 情報セキュリティフォーラム） 【書記】鶴田智貴（情報科学専門学校）

Q:F『スマホやネットを利用して便利だと思うことは何か?』 →「気になることを調べる。」 →「ネットで買い物できる。」 →「情報がすぐに入ってくる。」 →「わからないことをすぐに調べられる。」 →「家族で買い物。」 →「遊びにいやすい。」 →「友達と連絡が取りやすい。」 →「欲しい物がすぐに手に入る。」 →「学校行事や塾の予定がすぐ分かる。」 →「バイトのシフトがすぐ提出できる。」 →「友達と写真をすぐに共有できる。」 →「いつでもお店や病院の予約ができる。」 S:「みなさん学校絡みで利用したりすることが多い。」 S:「学校の授業だとアプリを通して、問題の配布ができる。」 S:「そのほうが良い。家で紙媒体の宿題をやるよりスマホ媒体のほうが気持ちのうで楽になる。」 S:「でもネット環境のせいで途切れてしまうと最初から宿題をやり直しになってしまうことがある。よって良い面もあれば悪い面もある。」 Q:S「バイトをしている人は、実際にシフトを提出するときどう思いますか?」 →「バイトのシフトを提出するとき、ネット上だと非常に便利だと思う。」 S:「便利な情報管理のひとつだと思う。」 S:「会話や連絡するうえで、多人数だと LINE だと便利。」 S:「一対一の連絡だけではなくてきたからとても便利だと思う。」 Q:S「SNS とかで写真をあげる時は、鍵アカウントにしていますか?」 →「していない」※ほぼ S:「情報取り入れるのが、スマホの普及で間隔細くなった。」 S:「好きな情報を短時間で入手できるから良い。」 S:「だから情報を細かく入手できるのは、わかりやすく位置情報サービスを使うときに恩恵を感じる。」 S:「気になるものがあった時に、すぐ探せてすぐ買えるネット通販などを便利だからよく使う。」 S:「それとプライム会員だと、特定のサービスを受けられることができるから良い。」 S:「ネット通販だと、興味関心あるものを特定してくれてピックアップしてくれる。」 S:「買ったもので、関連商品を探してくれるのが良い」 S:「動画などでも関連する動画を探してくれる。」 S:「ネット通販で、家にいなくても食料品を買える。」 S:「ネット通販などを例に ICT でいろいろなものが紐づけられていく。」 S:「ICT を便利さのメリットとして、多くの情報が紐づけられて自分好みにすることだと思う。」 F:『ネット利用についての落とし穴について考えましょう。』 S:「LINE などの事象で文字だけだと伝わりにくい。」 S:「直接言っているわけではないから、人によって捉え方が違うし、問題になりやすいと思う。」 S:「写真をネット上や SNS にあげるときは、了承を得ているかなど、流出して困ることはあげないように注意が必要だと思う。」	S:「あとは宿泊予約などの修正がしづらい。キャンセルの料金問題になる。」 S:「スマホゲームのやり過ぎで、課金して問題につながる。」 S:「ネット通販だと現物を見て買えない。」 S:「Twitter や LINE のやり過ぎで、依存症になってしまうのが問題だと思う。」 S:「依存症などで、夜遅くまで起きてしまうこともある。」 S:「情報収集のほうで Twitter などに依存してしまう。」 S:「あとは、ネット上にデータが永遠に残ってしまう。」 S:「どこの誰が写真や投稿を見ているか、分からないから問題である。」 S:「たくさん情報を集めることで、本当に知るべき情報が分からなくなってしまう。」 S:「情報を集めすぎて、冷静になれない。」 S:「情報に埋もれすぎていて、本来のことを、思い出せない。」 S:「地域関連でのネットに対する落とし穴ってなにかありますか?」 S:「バイト先の人で、SNS 上で交流したくないのに交流しないといけない。友達登録などをされて、こちらもバイト先の人なので登録しないといけない。」 S:「LINE の登録条件でメールアドレスや電話番号を登録しなくてもできるようになってきたので、連絡先交換のハードルが下がり、前の事例のような問題が多く発生しやすくなったのではないかな。」 S:「人によって、認識、意識の差があるのが問題な気がする。」 S:「その差や隔たりを技術で開発すれば問題は解決するのではないかな。」 S:「本来の目的の情報しか求めてない人用と、関連商品のシステムのように、紐づけしてより多くの情報を求めたい人用に分けるべきだと思う。」 S:「ICT の便利さのデメリットとしては、多すぎる情報によって知りたいという欲から本当に必要な情報が受け取れない。」 F:『今後どのような生活を作りだせるか考えましょう。』 Q: S「本当に知りたい情報が得られずに、本当に心豊かなのか。そのことを考え、これからどうするべきか?」 →「情報を見極める力を身に付ける。」 →「技術だけに頼らずに人間性の上でも頑張る」 →「目的を見失わない力を養う。」 →「自分で抑えられないことを技術で補う。」 Q: S「本当に知りたい情報が得られずに、本当に心豊かなのか。ではなぜ心豊かではないのか?」 →「重要な部分を見落としているかもしれないから。ネットショッピングで関連商品に目がいつってしまう。SNS でどんな情報が増えてしまう。※例、Twitter でのリツイート」 S:「この問題を解決するには、多くのアプローチが必要。」 S:「人間の理性で保てない部分をシステムなどで開発するべきだと思う。」 S:「技術をメインで使うのではなく、あくまで技術をアシストとして使うことが、心豊かな生活につながると思う。」 <熟議終了>
--	---

【ファシリテーター所感】

高校生のアイデアの方が学会等での報告よりも一部、新規性があるように思われるものがあった。

【書記所感】

皆さん初対面にも関わらず、テーマに沿って噛み砕いて熟議できていたことに凄く驚きました。高校生だと思えない考え方、志向がたくさん見られた。